

## この本を薦めます

学会誌編集委員長 佐々木 葉

第11回



## 佐藤馨一 北海商科大学教授

今月は、偶数月の学会誌月評をご担当いただいている佐藤馨一先生です。北の大地から国土への熱い思いを語られ続けている先生から、本質を見定めよという3冊をご紹介いただきました。



SATO Keiichi

写真は是非ここでと指定されたのは札幌駅近く、背後にJRの高架が見える場所。「ここに20年後に新幹線が通るのです。」1944年青森生まれ。専門は交通計画学、土木史学、物流システム論。

として司馬遼太郎の『ロシアについて』を挙げられた。シベリアという

東 北ご出身ながら北海道をこよなく愛し、中央から無視されようともひたすらその土地からの発信を続けてこられた佐藤先生は、イ

ンタビューの前週には日露フェリー促進協議会会長としてサハリンに行かれていた。領土問題が取りざたされる中、日本とロシアの関係を人ともの交流促進から考えることが必要と佐藤先生は考える。その際さ

わめて重要なロシア観を提示した本

として司馬遼太郎の『ロシアについて』を挙げられた。シベリアという

東 北ご出身ながら北海道をこよなく愛し、中央から無視されようともひたすらその土地からの発信を、

広大な領土のロシアにおける意味を、

モンゴルや中国との関係を深く洞察しながら示す。その上でロシアが日本に何を求める、それに日本はどう対応してきたのか。史実のピックアップが伝える國の転変のみならず、民族や人物の氣質の鮮やかな対照にもおよぶこの本は、文明と文化、國と國民、政治と外交といった國土計画に不可欠なもの

の見方を

大いに刺激する。27年前に書かれた本ながらその指摘は今こそ参考され

の見方を

大いに刺激する。27年前に書かれた本ながらその指摘は今

の見方を

大いに刺激する。27年前に書かれた本ながらその指摘は今

次の『人はなぜ逃げおくれるのか』は、佐藤先生が大学でリスクマネジメントの講義をする際に副読本とされたものである。阪神・淡路大震災を直接のきっかけとして書かれた災害心理学のこの本には、実は安全と

リアム・ホイーラー』は、真の人材教育とは何かを考えるために、と挙げていただいた。北海道大学といえば「少年よ大志を抱け」のクラーク博士が有名だが、明治の大人物らを実際に育てた札幌農学校の教育者はホイーラーであることはほとんど知られていない。本国でも非常に尊敬されたこの若きエンジニアに迫った

リヤム・ホイーラー

北ご出身ながら北海道をこよなく愛し、中央から無視されようともひたすらその土地からの発信を、

広大な領土のロシアにおける意味を、

モンゴルや中国との関係を深く洞察しながら示す。その上でロシアが日本に何を求める、それに日本はどう対応してきたのか。史実のピックアップが伝える國の転変のみならず、民族や人物の氣質の鮮やかな対照にもおよぶこの本は、文明と文化、國と國民、政治と外交といった國土計画に不可欠なもの

の見方を

大いに刺激する。27年前に書かれた本ながらその指摘は今

の見方を

大いに刺激する。27年前に書かれた本ながらその指摘は今

ロシアについて  
—北方の原形司馬遼太郎：  
文春文庫人はなぜ  
逃げおくれるのか  
—災害の心理学廣瀬弘忠：  
集英社新書お雇いアメリカ人  
青年教師 ウィリ  
アム・ホイーラー高崎哲郎：  
鹿島出版会

学会誌8月号のグローバル人材特集への月評でも触れられた『ウイ

タ。』

少し拌見することができ、嬉しかつ